

抗ウィルス・除菌製剤

ペストノール[®] シリーズ

至極の
衛生商品

【世界実績の「プロキセル IB」配合】

プロキセル IB (アーチ・ケミカルズ社) は、工業用除菌における世界シェア
50%以上(世界30カ国以上)の実績、評価を得ており、
日本ではコンタクトレンズの洗浄液等、人体に安全な成分として幅広く使用
されています。

【主な特長】

- ◇ノロウィルス等、ウィルス類の不活性化、感染予防。
- ◇O-157、大腸菌群・MRSA(耐性黄色ブドウ球菌)・サルモネラ菌等、食中毒菌対策。

これからは安心・安全・持続のペストノールで
ウィルス、菌 管理の時代です。

〔従来のアルコール除菌ではウィルスに効果はなく、
二酸化塩素系除菌では弊害リスクが避けられません〕

【使用方法】

- 1 厨房器具及び、多数の人が触れる場所への除菌



[500mlスプレー]

- 2 必須、トイレの便座除菌 (便座シートクリーナー)



[便座クリーナー本体]

[便座用500mlボトル]

※本体は厨房内の手・指除菌用としてもご活用できます。

- 3 ジェットULV機を用いた、各施設の全体処理



[詰替用 4L]

[ジェットULV機マイクロ処理]

- 4 泡状ハンドソープ及び、手・指コーティング



[詰替用 4L]

[フォーム剤 350ml]

ペストノールの(財)日本食品分析センターによる殺菌効果試験結果

■ノロウイルス(代替ネコカリシウイルス)

第 208031584-001 号 page 1/3

ウイルス不活化試験

- 依頼者
株式会社 日本サドリー
- 検体
ペストノール
プロキセルB (Polyhexamethylene biguanide hydrochloride; 略称PEMB)
- 試験目的
検体のネコカリシウイルスに対する不活化試験を行う。
- 試験概要
検体にネコカリシウイルス(ノロウイルスの代替ウイルス)のウイルス浮遊液を添加、混合し、作用液とした。室温で作用させ、15及び30分後に作用液のウイルス感染価を測定した。なお、あらかじめ予備試験を行い、ウイルス感染価の測定方法について検討した。
- 試験結果
結果を表-1に示した。
また、細胞維持培地で作用液を1,000倍に希釈することにより、検体の影響を受けずにウイルス感染価が測定できることを予備試験により確認した。
なお、ネコカリシウイルスは、細胞培養が不可能なノロウイルスの代替ウイルスとして広く使用されている。

表-1 作用液のウイルス感染価測定結果

試験ウイルス	対象	log TCID ₅₀ /ml ^{#1}		
		開始時	15分後	30分後
ネコカリシウイルス ^{#2}	検体	8.7	<3.5	<3.5
	対照	8.7	***	8.7

TCID₅₀: median tissue culture infectious dose, 50 %組織培養感染量
^{#1} 作用液1 ml当たりのTCID₅₀の対数値
^{#2} ノロウイルスの代替ウイルス
 開始時: 作用開始直後の対照のTCID₅₀を測定し、開始時とした。
 対照: 精製水
 作用温度: 室温
 <3.5: 検出せず
 ***: 試験実施せず

©(財)日本食品分析センター

■O157:H7(ベロ毒素非産生株)

試験液の生菌数測定結果

試験菌	対象	生菌数(/ml)		
		開始時	15分後	30分後
大腸菌 (O157:H7)	検体	2.0×10 ⁸	<10,000	<10,000
	対照	2.0×10 ⁸	—	1.7×10 ⁸

対照: 精製水
—: 実施せず

<10,000: 検出せず
保存温度: 室温

写真-1 大腸菌(O157:H7) 対照 開始時 (試験液0.1μl)
 写真-2 大腸菌(O157:H7) 検体 15分後 (試験液0.1μl)

大腸菌(O157:H7)
 経口的に摂取し、小腸内で増殖することにより、起こる感染症。体内でベロ毒素を産生し、少量の菌で発症する。
 腹痛、下痢、発熱、HUS(溶血性尿毒症症候群)

■MRSA(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌)

試験液の生菌数測定結果

試験菌	対象	生菌数(/ml)		
		開始時	15分後	30分後
MRSA	検体	1.5×10 ⁸	<10,000	<10,000
	対照	1.5×10 ⁸	—	1.3×10 ⁸

対照: 生理食塩水
—: 実施せず

<10,000: 検出せず
保存温度: 室温

写真-1 MRSA 対照 開始時 (試験液1μl)
 写真-2 MRSA 検体 15分後 (試験液1μl)

MRSA(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌)
 病院内で二次感染が問題になっている種々の抗生物質に効かなくなった多剤耐性の黄色ブドウ球菌のことです。
 感染症として肺炎、敗血症、腸炎、髄膜炎、胆管炎

■サルモネラ菌

試験液の生菌数測定結果

試験菌	対象	生菌数(/ml)		
		開始時	15分後	30分後
サルモネラ	検体	9.7×10 ⁷	<10,000	<10,000
	対照	9.7×10 ⁷	—	9.7×10 ⁷

対照: 精製水
—: 実施せず

<10,000: 検出せず
保存温度: 室温

写真-1 サルモネラ 対照 開始時 (試験液0.1μl)
 写真-2 サルモネラ 検体 15分後 (試験液0.1μl)

サルモネラ菌
 経口的に摂取し、小腸内で増殖することにより、起こる感染症。動物の腸管内に保菌され、食肉、卵、ミルク等の食品に汚染を広げるサイクルを持っている。

※上記データは、封書用に簡易、縮小制作されたものです。

★お問い合わせ・お申し込みは…